

平成22年度事務事業評価表(平成21年度振り返り)

政策名		水とみどりを守り育てていくまち		施策番号・名		05 水と緑に親しめる空間の創造		基本事業番号・名		05-02 水辺環境整備の推進		改革・改善の余地		改革・改善の余地を踏まえた平成23年度以降に向けた事務事業の方向性(所管課長記入欄)					
事務事業番号	所管課係名	事務事業の目的(事務事業の対象、手段、意図)		対象指標(対象の数値指標化)		活動指標(手段の数値指標化)		成果指標(意図したことの結果の数値指標化)		事業費(実績額)①(千円)	人件費(理論値)②(千円)	トータルコスト①+②(千円)	改革・改善の余地(目的妥当性・効率性・有効性・公平性から)		改革・改善の余地を踏まえた平成23年度以降に向けた事務事業の方向性(所管課長記入欄)				
	事務事業名			指標	実績値(単位)	指標	実績値(単位)	指標	実績値(単位)				選択項目	説明(選択理由)	選択項目	説明(選択理由)			
05-02-01	環境政策課 みどりと公園担当	対象	市民、宅地の所有者への浸透施設補助金	平成21年度	3 (件)	平成21年度	3 (件)	平成21年度	100 (%)	平成21年度	190	平成21年度	126	平成21年度	316	選択項目	説明(選択理由)	選択項目	説明(選択理由)
	雨水貯留浸透施設設置補助事業	手段	浸透ます設置者に対する補助金制度	平成20年度	14 (件)	平成20年度	14 (件)	平成20年度	100 (%)	平成20年度	667	平成20年度	247	平成20年度	914	22年度以降に向けた方向性	現状維持	所管課長名	環境政策課 林 幸雄
		意図	市民の生活環境の保水の確保、地下水の涵養の水循環システム確立	平成19年度	11 (件)	平成19年度	11 (件)	平成19年度	100 (%)	平成19年度	968	平成19年度	246	平成19年度	1,214	改善の余地	■あり □なし	23年度以降に向けた方向性	現状維持
05-02-02	施設管理課 管理調整担当	対象	東京都河川改修促進連盟	平成21年度	1 (団体)	平成21年度	6 (回)	平成21年度	6 (回)	平成21年度	55	平成21年度	1,317	平成21年度	1,372	選択項目	説明(選択理由)	選択項目	説明(選択理由)
	東京都河川改修促進連盟参画事業	手段	・国、都、国会議員への要請行動 ・促進大会の開催 ・治水事業全国大会へ出席	平成20年度	1 (団体)	平成20年度	6 (回)	平成20年度	6 (回)	平成20年度	55	平成20年度	1,290	平成20年度	1,345	22年度以降に向けた方向性	縮小	所管課長名	施設管理課 古澤毅彦
		意図	・河川氾濫、溢水による災害を防止 ・河川改修事業の早期達成要望	平成19年度	1 (団体)	平成19年度	6 (回)	平成19年度	6 (回)	平成19年度	55	平成19年度	1,286	平成19年度	1,341	改善の余地	□あり ■なし	23年度以降に向けた方向性	縮小
05-02-03	施設管理課 道路河川施設担当	対象	自然物(河川・水路)	平成21年度	13,810 (m)	平成21年度	45 (回)	平成21年度	45 (回)	平成21年度	11,677	平成21年度	2,019	平成21年度	13,696	選択項目	説明(選択理由)	選択項目	説明(選択理由)
	普通河川維持管理事業	手段	清掃、草刈、浚渫、軽微な補修	平成20年度	13,810 (m)	平成20年度	38 (回)	平成20年度	38 (回)	平成20年度	9,129	平成20年度	1,978	平成20年度	11,107	22年度以降に向けた方向性	アウトソーシング	所管課長名	施設管理課 古澤毅彦
		意図	河川、水路等の安全性、美観の維持	平成19年度	13,810 (m)	平成19年度	37 (回)	平成19年度	37 (回)	平成19年度	10,167	平成19年度	1,972	平成19年度	12,139	改善の余地	□あり ■なし	23年度以降に向けた方向性	アウトソーシング
05-02-04	施設管理課 道路河川施設担当	対象	・自然物(河川、水辺)の利用者	平成21年度	47,338 (m)	平成21年度	4 (件)	平成21年度	749 (千円)	平成21年度	0	平成21年度	348	平成21年度	348	選択項目	説明(選択理由)	選択項目	説明(選択理由)
	河川占用許可事務	手段	・条例に基づく占用許可	平成20年度	47,338 (m)	平成20年度	2 (件)	平成20年度	746 (千円)	平成20年度	0	平成20年度	341	平成20年度	341	22年度以降に向けた方向性	現状維持	所管課長名	施設管理課 古澤毅彦
		意図	・河川、水路の占用による受益者負担を確実に徴収する	平成19年度	47,338 (m)	平成19年度	2 (件)	平成19年度	624 (千円)	平成19年度	0	平成19年度	340	平成19年度	340	改善の余地	□あり ■なし	23年度以降に向けた方向性	現状維持
05-02-05	施設管理課 管理調整担当	対象	・新河岸川水系改修促進期成同盟会	平成21年度	1 (団体)	平成21年度	4 (回)	平成21年度	4 (回)	平成21年度	21	平成21年度	97	平成21年度	118	選択項目	説明(選択理由)	選択項目	説明(選択理由)
	新河岸川水系改修促進期成同盟会参画事務	手段	・国、都、国会議員への要請行動 ・総会の開催 ・幹事会への出席 ・研修会への参加	平成20年度	1 (団体)	平成20年度	4 (回)	平成20年度	4 (回)	平成20年度	21	平成20年度	95	平成20年度	116	22年度以降に向けた方向性	現状維持	所管課長名	施設管理課 古澤毅彦
		意図	・河川氾濫、溢水による災害を防止 ・河川改修事業の早期達成要望	平成19年度	1 (団体)	平成19年度	4 (回)	平成19年度	4 (回)	平成19年度	23	平成19年度	95	平成19年度	118	改善の余地	□あり ■なし	23年度以降に向けた方向性	現状維持

平成22年度事務事業評価表(平成21年度振り返り)

政策名 水とみどりを守り育てていくまち

施策番号・名 05 水と緑に親しめる空間の創造

基本事業番号・名 05-02 水辺環境整備の推進

事務事業 番号	所管課係名	事務事業の目的 (事務事業の対象、手段、意図)	対象指標 (対象の数値指標化)		活動指標 (手段の数値指標化)		成果指標 (意図したことの結果の 数値指標化)		事業費 (実績額) ① (千円)	人件費 (理論値) ② (千円)	トータル コスト ①+② (千円)	改革・改善の余地 (目的妥当性・効率性・有効性・公平性から)		改革・改善の余地を踏まえた 平成23年度以降に向けた事務事業の方向性 (所管課長記入欄)				
	事務事業名		指標	実績値 (単位)	指標	実績値 (単位)	指標	実績値 (単位)				選択項目	説明(選択理由)		選択項目	説明(選択理由)		
05-02-06	施設管理課 管理調整担当	対象 ・東京都総合治水対策協議会 手段 ・ブロック代表者会議へ出席 ・総合治水推進週間行事へ参画 ・幹事会へ出席 ・協議会へ出席 意図 ・東京都内における総合的な治水対策の 推進 ・総合治水対策において住民の関心を高 め、理解と協力を得るための行事を実施	東京都総合治水対 策協議会	平成21年度	総合治水推進行事	平成21年度	総合治水推進行事	平成21年度	50	1,762	1,812	選択項目	説明(選択理由)	選択項目	説明(選択理由)			
	1 (団体)			4 (回)		4 (回)		22年度以降に向けた方向性				現状維持	所管課長名: 施設管理課 古澤毅彦					
	平成20年度			平成20年度		平成20年度		平成20年度				平成20年度	平成20年度	改善の余地	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	23年度以降に向けた方向性	現状維持	
	1 (団体)			4 (回)		4 (回)		東京都総合治水対策協議会は、東京都と 区、市及び町村の56団体で共同歩調をとっ ている協議会であり、東京都内における総合 的な治水対策の推進のための計画策定、総合 治水対策について住民の関心を高め、理解と 協力を得るための行事の実施などを行なっ ており、当市単独での改善・改革の余地は無 い。				河川改修に関連する市町村が対象のため、単 独で事業の廃止を行なうことは不可能。						
05-02-07	施設管理課 下水道計画係	対象 普通河川(黒目川上流) 手段 黒目川2号雨水幹線築造工事 意図 下水道施設として河川を整備し且つ、水 に親しむ水辺空間を設ける。	黒目川上流域親水 化事業区間	平成21年度	親水化整備延長	平成21年度	黒目川上流域親水 化整備率	平成21年度	45,745	2,724	48,469	選択項目	説明(選択理由)	選択項目	説明(選択理由)			
	2,300 (m)			166 (m)		55.64 (%)		22年度以降に向けた方向性				現状維持	所管課長名: 施設建設担当 小林尚生					
	平成20年度			平成20年度		平成20年度		平成20年度				平成20年度	平成20年度	改善の余地	<input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	23年度以降に向けた方向性	現状維持	
	2,300 (m)			320 (m)		48.43 (%)		良好な水辺環境の向上や浸水被害にも強い まちづくりの整備に市が関与するのは妥当で ある。				新世代下水道事業制度として採択されている 事業である。 雨水下水道事業と併せて親水性のある良好な 水辺空間の整備は水環境を向上させるものであ り、維持していくべき事業である。平成22年度 完了予定であったが、事業費の平準化及び用地 取得等の関係から事業延伸を行っていく。						
		平成19年度	平成19年度	平成19年度	平成19年度	平成19年度	平成19年度	34.51 (%)	59,175	6,656	65,831							